笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３３３号
平成２６年１０月３１日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

されていて、していること

校　長　　鈴木　隆志

１０月８日の夜空に、赤い月が浮かびました。皆既月食です。月は、太陽に照らされて輝きます。地球の影が太陽の光を遮って月を隠してしまったのです。それでも、月は赤い光で私たちを照らしてくれました。月は、“照らされていて、照らしている”のです。私たちの営みにも似ていませんか。“親切にされていて、親切にする”、“優しくされていて、優しくしている”、“感謝されていて、感謝する”、“助けられていて、助けている”、“支えられていて、支えている”、……。誰もが誰かのおかげで生きていて、誰もが誰かの役に立っているのです。愛されていて、愛しています。

子供は、親や家族、教師や周りの人に愛されていて健やかに育ちます。おうちで兄弟姉妹がいてもそれぞれに愛情を注ぐように、学校でも一人一人の光っ子たちに分け隔てなく愛情を注いでいます。おうちでも学校でも、言うことをきかないとついつい叱ることが多くなってしまいますが、叱るにも愛情が伝わるようにしないといけません。叱ることは、褒めることよりずっと難しいことなのです。叱るということは、諭すということです。行動の改善を求めているのであり、その子の存在や人格を否定するものではありません。「だからおまえはダメなんだ」では、愛情が感じられなくなります。「ダメ！」「違う！」「何やってんだ！」と、頭ごなしに叱ることもよくありません。子供が自分で気付くこと、自分で自分の行動をコントロールできるようにすることが大事です。

叱られた時に、「うそ」をつく子がいます。子供の「うそ」も見抜くようにしないといけません。子供がうそをつく原因・背景は様々あります。「注意を惹きたい」「力を誇示したい」「好かれたい」「認められたい」「褒められたい」「手に入れたい」「独占したい」「叱られたくない」「罰を避けたい」「仕返ししたい」などが考えられます。うそをつく子供にとって、何が原因・背景なのかじっくりと話を聞きながら探っていきます。話を聞く際、「本当のことを話してごらん」と言うのは禁句です。このような言葉かけは「疑われている」と感じさせてしまうため、うその上塗りになりかねません。うそをつく子供は、自分のうそがばれることを何よりも恐れているのです。うそを叱る時も、愛情が伝わるようにすることが大事です。

誰かにいじめられている子がいたら、その子はきっと、人は誰かがいなければ傷つけられることもないし誰かを傷つけることもないと思うのでしょう。寂しい思いです。「人がいて人がいる」という当たり前の喜びや嬉しさが、いじめられている子にとっては悲しくてつらいことにしか感じません。どんなことがあっても、いじめは許せないことです。「いじめなんかしていません」というううそは、しっかりと見抜かなければなりません。誰もが誰かのおかげで生きていて、誰もが誰かの役に立っているという思いに戻してあげなければいけません。１１月はふれあい（いじめ防止強化）月間です。また、児童虐待防止推進月間でもあります。光っ子たち一人一人の幸せのため、いじめが起こらない学校を築き上げていきます。

光っ子たちの笑顔は“照らされていて、照らしている”輝きです。夜空の月とおんなじです。